

## 令和3年度 事業報告

### 令和3年度 社会福祉法人天寿会 事業執行経過報告

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症防止に取り組みながら、様々な制約のなかでの事業運営となりました。前年度同様、利用者サービスの面では外出・外泊、面会の制限や全体行事の中止が続き、利用者・家族・職員共にストレスの溜まる1年となりましたが、白老町内や胆振管内でも感染者数が増加し介護施設や福祉施設で集団感染が起きる中、法人内では利用者の感染はなく、職員も家庭内感染1件のみに留まり、事業執行することができました。

白老町立特別養護老人ホーム寿幸園は令和4年度の指定管理更新年をまえに白老町と赤字減少及び解消に向けた話し合いの場を持つなかで、施設譲渡の提案を受け検討の結果、建物・設備・備品等の無償譲渡、土地の無料貸与にて令和4年4月1日より、天寿会の施設となりました。

### 〔1〕重点項目への取り組み及び評価

#### ① 経営

障がい分野事業所及び介護分野事業所においては、若干の差はあるものの概ね安定した経営となりました。但しその要因の一つには看護職や介護職の補充が間に合わず、その分だけ人件費支出が減少したということも含まれます。施設整備では療護棟の大規模修繕に向けての検討がスタートしています。

法人の取り組みや各事業所の様子はホームページにおいて随時発信しています。事業所によって発信頻度に差が出ていますが、ご家族や関係機関には少しずつ認知されるようになっていきます。

働きやすい職場づくりでは、国の新しい制度や指針に合わせて就業規則をはじめ各種規程を見直し改正しました。また、新設された「介護職員処遇改善支援補助金（福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金）」について対応し、従来の「処遇改善加算」「特定処遇改善手当」と合わせて賃金改善に取り組みました。

#### ② サービスの向上

面会制限や行事の中止で、外部からの目「誰かに見られる」ことがほとんどないことによる緊張感の欠如、モラルの低下といったサービス全体への影響がでないよう、注意が必要な1年でした。

安心安全なケアの提供では、振興局報告が必要な重大事故発生数は令和2年度と変わらないものの骨折事故が増えて17件と全体の7割を占めました。事故となった各ケースにおいては原因究明と再発防止への取り組みを丁寧に説明することでトラブル等に至っていませんが各事業所において再発防止への取り組みの差が出ないように注意していきたい。

利用者の確保については特に障がい部門において厳しい状況ですが新たな取り組みには至りませんでした。各事業所ともコロナ禍の影響で施設見学、相手先訪問などアウトリーチしていく面で支障をきたすなど影響を受けましたが、利用者確保への積極的姿勢が不足でした。

#### ③ 地域とのつながり

前年度同様、地域活動はほとんどが中止となり地域との交流が途絶えてしまいました。活動再開の折には、また一からの積み重ねになると思われます。

#### ④ 人材の確保と育成

深刻な人材不足が急速に進んでおり、例年になく厳しい局面となっています。ハローワークを通じての応募はほとんどなく、紹介会社や派遣会社からの情報も非常に少ない状況でした。転職求人システムで「ミ

イダス」を導入しましたが、使いこなしていないのが実情です。また、中国人留学生の受入れ予定をしていましたが、該当レベル到達者がいなかったとのことで見送りとなりました。

法人内の介護職員実務者研修受講者は2名。過去受講者を含め令和3年度の介護福祉士の国家試験には3名が合格しました。

#### ⑤ 新型コロナウイルス感染防止

白老町と連携・協力体制を維持しながら、利用者及び職員に対する3回のワクチン接種を実施、地域の集団接種に対して医師・看護師の派遣などを行いました。法人内での感染・発症者を出すことなく経過し、要因として職員の予防に対する正しい知識習得、高い予防意識の成果とも言えます。また、面会や外出の制限・行事の中止についてはオンライン面会や代替機行事で対応しました。

## 令和3年度 更生部 事業報告

総 評	<p>入所部門は稼働率94.2%で年間平均利用者数は37.9名と低迷し、入院延人数が668人と多く利用率低下と減収に繋がった。通所部門はコロナ禍での利用控えも重なり稼働率53.8%、年間平均利用者数も10.6人と減少し前年度実績を下回る結果となった。新規利用希望者も少なく、入居待機者も減少見られ利用者確保が早急の課題になっている。コロナワクチン接種を利用者及び職員への3回目の接種を終え、幸いにも利用者及び職員に陽性者はなく、クラスターの発生には至らなかった。更生部としての入所部門・通所部門の一体的な事業運営に向けた「介護業務ミックス」に関しては、コロナ感染症対策を講じての職員専従化対応もあり、入浴程度に協働が限定され、今後の課題となった。職員採用関係では、退職者の補充も入職希望者が少なく、採用に繋がらず停滞しており、特に介護職員の確保が早期の課題となっている。</p> <p>ウィズコロナ状況下でのサービス提供にて、特に在宅より通われる通所利用者に関しては、より一層の感染対策の継続徹底を要しており、今後の継続課題となっている。生活介護での日中活動では、作業担当者の退職もあり1名体制にて限定的なサービス種目に限定されており、新たな日中活動の提案には未だ至っておらず事業所内での検討とサービス体制の確立が急務となっている。</p>	
利 用 者 サ ー ビ ス	利用者状況	<p>入所部門は夜間帯のサービス提供にあたる「施設入所支援」は年間延人数13,749人、稼働率94.2%、年間利用平均数37.9名であった。入院延人数は668人と下期を中心に増加みられ利用率低下の一因となった。日中活動支援にあたる「生活介護」では在宅・地域からの「通所事業」は年間延人数2,949人、稼働率53.8%、年間での平均利用人数は10.6人と低迷した。</p>
	相談援助	<p>毎月定例となっている支援会議の開催、支援計画書の作成対応を行う。緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置期間以外での特設面会室での面会対応に加えて、web面会の受付対応を実施。在宅GH利用者や医療機関からの入所利用の相談があったが、入所希望者数の減少もあり迅速な新規受入れができず、利用率悪化に繋がった。通所部門でも同様であり、コロナ禍での影響も加わり前年度利用率を大きく下回った。</p>
	介護支援	<p>入所・通所部門での一体的な事業運営に向けた「介護業務ミックス」の試行を行うも、入所・通所側職員の双方での課題も多く、入浴業務のみに限定した実施に留まった。介護職員間同士の人材交流及び通所事業の稼働率拡大に向けた体制整備が急務となっている。退職希望に伴う職員補充も停滞しており、早急な介護職員の採用と介護体制の整備を要している。</p>
	健康管理	<p>入所通所利用者に向けたインフルエンザワクチン接種を例年同様実施。接種を希望する利用者及び職員へのコロナワクチン接種を3回実施し、利用者及び職員とも陽性者なく経過した。引き続き感染対策の徹底と継続が求められる状況だが、入所及び通所利用者への各々への支援においては、スタッフの専属化に終始しており、前述の一体的な支援体制の構築には課題も多い。通所部門では、在宅、地域からのサービス利用形態であり、必然的に感染症リスクも高まり、より一層の感染対策の徹底が求められている。</p>
	機能訓練 (日中活動 を含)	<p>入所、通所部門で訓練提供時間を分散させて実施し訓練室の利用時間も重複しないよう工夫してサービス提供を行う。特に通所利用者の対応においては、より一層の徹底した時間割にて訓練、作業を行い感染対策に努め実施した。日中活動において、これまで重点的に携わってきた職員1名の退職もあり、新たな日中活動の提案が求められているが、課題も多く現行のかご編み等が中心となっており、事業所としての日中活動の検討が急務となっている。</p>
	給食	<p>調理委託先と協働での「法人企画食」の提供は概ね好評のようであった。引き続き、ウィズコロナの状況での、施設提供食の工夫が求められており、利用者の要望や意向も踏まえた食事提供が求められている。</p>
	庶務(請求 業務等)	<p>隣接事業所及び法人内事業所(しおさい)と合同での一括請求を継続。遅滞等なく実施した。毎月定例での事故防止委員会や虐待防止・身体拘束廃止委員会、感染防止対策委員会を障がい合同で実施した。</p>
	行事クラブ	<p>コロナ禍にて法人全体行事での「秋の祭典」は全体では実施できず、各事業所にて実施した。感染対策を講じての行事企画であったが、利用者からは概ね好評であった。生花クラブは月2回定例稽古を個別に継続してきた。</p>
	研修計画等	<p>前年度同様、外部研修への参加は見合わせ、法人・事業所内研修を中心に実施。</p>
	施設管理等	<p>本部棟倉庫より10年が経過しナースコール対応のPHS等に不具合有り適宜修理対応する。</p>

## 令和3年度 療護部（短期舎）事業報告

総 評	<p>年間稼働率は96.5%、年平均利用者数は47.8名であり、入院延人数は247名と比較的少なく推移したことが利用率向上に繋がった。希望者へのコロナワクチン接種を利用者及び職員に3回実施し、幸いにも利用者及び職員に陽性者は出ずクラスター発生もなかった。個室が存在せず多床室で構成される住環境にて、同室者間での感染対策に限界がある中で引き続き感染対策の徹底が求められている。職員関係では定年退職を含めた2名の退職者と2名の産休取得者がおり、介護職員の補填にも至っておらず、引き続き採用活動の継続を要している。給湯や排水管関係の関連設備の老朽化と建物全般の老朽化が顕著であり、早急な改修等の支援対策を講じる必要があり修繕箇所の具体化等の検討を要する。ウィズコロナでの事業運営において外出自粛期間も長く、利用者への行事提供も縮小傾向の中での実施となった。空床型で運営する短期入所事業では、今年度は空床も少なく受け入れは、限定的となったが、7月に1名の女性利用者の短期受け入れを行った。</p>	
利 用 者 サ ー ビ ス	利用者状況	<p>年間延利用者数は17,603人、年稼働率は96.5%、年間平均利用者数は47.8人で入院延人数は247名で推移した。経管栄養等の重度加算算定者も定数を満たしており、入院者数の減少が利用率向上に繋がった。</p>
	相談援助	<p>定例開催のケース会議及び支援計画書の立案対応を実施。特別面会室での対応と面会対応に加えてweb面会の受付対応を実施した。隣接する更生部と同様に町内GH等の在宅利用者や近隣医療機関からの相談はあるものの、夜間のサクション対応等の医療重度ケースの相談も多く、現実的な入所希望者の確保や待機には至っておらず新規利用者の確保が更生部同様の喫急の課題となっている。</p>
	介護支援	<p>介護職員の早番・遅番業務の定着化が図れ、頸椎・脊椎損傷等の重度利用者等への支援を目的とした3名夜勤体制を従前より踏襲しており、早朝や夕食提供後の介護では人的フォローに繋がってはいるが、職員不足や介護業務の重点化、勤務形態等の課題がある中で、2名夜勤体制への変更等の大きな体制変更を含めた検討を要している。産休者が2名いる状況で退職者の補充にも時間を要しており、更生部と同様に職員確保が課題である。</p>
	健康管理	<p>例年同様のインフルエンザワクチン接種を利用者及び職員に実施した。コロナワクチン接種に関しても、希望のあった利用者及び職員に3回の接種を実施。すべて個室の更生部とは異なり、多床室で構成される住環境であり、昼夜での利用者間感染のリスクも高い状況だが、幸いにも利用者及び職員の陽性者なく経過した。同居家族が濃厚接触者（疑いも含）となり、自宅待機となり特に介護職員専門においては勤務ローテーションの調整に苦慮するケースも多く今後の事業運営での課題となっている。</p>
	機能訓練 (日中活動 を含)	<p>訓練室の活用を最小限に留め、ベッドサイドや廊下等での訓練を中心に実施した。作業訓練では訓練員1名体制にて作業種目もかご編みとPC作業訓練が中心になったが、日中活動として更生部同様に新たなサービスの提案が求められている。今後は利用者のニーズ把握も踏まえての検討を要している。</p>
	給食	<p>調理委託先と協働での「法人企画食」の提供は概ね好評のようであった。引き続き、ウィズコロナの状況での、施設提供食の工夫が求められており、利用者の要望や意向も踏まえた食事提供が求められている。栄養マネジメント業務を続け、栄養管理を継続している。</p>
	庶務（請求 業務等）	<p>隣接事業所及び法人内事業所（しおさい）と合同での一括請求を継続。遅滞等なく実施した。毎月定例での事故防止委員会や虐待防止・身体拘束廃止委員会、感染防止対策委員会を障がい合同で実施した。</p>
	行事クラブ	<p>コロナ禍にて法人全体行事での「秋の祭典」は全体では実施できず、各事業所にて実施した。感染対策を講じての行事企画であったが、利用者からは概ね好評であった。生花クラブは月2回定例稽古を個別に継続してきた。</p>
	研修計画等	<p>前年度同様、外部研修への参加は見合わせ、法人・事業所内研修を中心に実施。</p>
	施設管理等	<p>建物や設備面の老朽化が顕著であり、適宜の修理対応にも限界有り早期の対応を要している。</p>

## 令和3年度 特養部（短期入所含む）事業報告書【概要】

総括	<p>令和3年度の入所延べ人数は13,293人で利用率は95.8%となった。下期においては、空床利用5%枠での受け入れで入所者数が定員を越えた月もあった。入院者は前年に比べ少なく退所後の空床期間比較的あけずに受け入れを行った。</p> <p>短期入所では年間利用率が66.0%となった。コロナ禍での利用控えも減少要因の一因だが、引き続き新規顧客の受け入れし町内で限られた短期事業所としての認識を踏まえ、利用者確保とリピーターの増加に向けた営業体制を整え利用率の向上を目指す。骨折事故・裂傷事故と介助時に発生したケースが多くみられ検証・対策を行ったが統一した支援のありかた・サービス提供に課題が残った。下期より介護職員の長期離脱により介護課に負担がかかった。</p> <p>今年度もコロナ禍による家族面会や外出及び外泊の自粛、行事の中止と1年を通じて、制約された環境下でのサービス支援となった。利用者や所属職員のコロナウイルス及びインフルエンザ等の罹患者はいなかったが、全体を通して新型コロナがらみの職員の休暇が前年より多くみられた。引き続き感染対策の徹底を要している。</p>	
利用者等	利用状況	今年度の新入所は管内中心に9名、退所は入院が伴い6名であった。短期入所は、コロナ禍でもあり利用を控える方もいたが事故などなく行えた。
利用者	相談	今年度もコロナ禍での染対策を講じて面会を実施、生活状況の説明を行った。Web面会も引き続き実施したが数件に留まった。大半は電話連絡による近況報告や手紙が中心となった。入退院の調整・新規入居退居調整を円滑に行う。ショートステイコロナ禍ではあったがきるだけ体制を整え受け入れを行ったが多床室というハード面での受け入れや職員体制に課題が残る。
サービス	介護	入所では事故件数が多く転倒・裂傷と介助中の事故があり、利用者の行動把握や職員間での適切な介護方法の周知等に課題が残った。職員への教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。下期は長期休職者もあり余裕が見られなかった。
サービス	健康管理	入所・短期利用者や職員のコロナ感染者やインフルエンザ罹患者はなく経過、外部受診時は感染対策の徹底を図りながら可能な限り支援を行った。3年度は新型コロナウイルスワクチン接種3回実施し予防対策にあたった。今後も可能な限り感染対策を行いながらの健康管理の継続の実施を行う。
サービス	訓練	併設友活の里との訓練提供となるが、個別に訓練を実施し幅広く行い利用者の自立支援や意欲につながった。引き続き個別にあった訓練の継続した提供と時間の継続した検討を要する。
サービス	給食	例年同様、入所では栄養ケア計画に基づいた食事提供と栄養管理を実施できた。法人企画食の提供等、コロナ禍での制約された生活の中で、利用者からも好評であった。
サービス	庶務	下半期よりワイズマン導入により請求の確実性と効率化がはかられたが相談員の業務負担となり課題が残る。
サービス	行事クラブ	コロナ禍でもあり施設内行事を中心に言い、外での行事は1回のみとなった。生花は継続して行われた。今後もコロナ禍での行事となるが状況をみながら施設外の企画実行に向けた必要がある。
サービス	研修計画等	外部研修の参加はほとんどなく、法人及び事業所内での研修実施に留まった。職員体制に余力がないため、Web研修の取り入れながら必要とされる研修も検討されるが思うような体制が組めず課題が残る。
サービス	施設管理等	設備の細かいところの老朽化があり、今年度は点検が行き届かず修理対策が必要と思われる。

## 令和3年度 友活の里事業報告書【概要】

総括	<p>開設2年目となり、比較的安定した在籍数を保ち入居延べ人数は 14,119 人、年間利用率は 97.3%となった。入院者はいたものの長期入院のケースが昨年より少なかった。コロナ禍でもあり入所判定低委員会は行っていないが待機順番を明確にして空床期間をあげずに受け入れを行った。振興局報告を伴う重大事故（骨折・誤薬）、に対しては速やかに検証対策を行った。介護職員の欠員が続きサービスへの影響も考えられたが、工夫をしながらの支援によりサービスは保たれたが課題は多い。今年度もコロナ禍による家族面会や外出及び外泊の自粛を行ったが、年末年始に面会実施と一部入居者の外出・外泊が実施できたことにより家族との交流を図ることができた。1年を通じて、制約された環境下でのサービス支援となった。利用者や所属職員のコロナウイルス及びインフルエンザ等の罹患者はいなかったが、全体を通して新型コロナがらみの職員の休暇が前年より多くみられた。引き続き感染対策の徹底を要している。</p>	
利用者	利用状況	<p>今年度の大きな出入りはなく比較的安定し入居6名、退居6名であった。ご本人・ご家族による、高額な利用料負担の改善として、多床室への転室が1名いた。入居の希望者確保に向けては、町内外への空床情報等の提供を行うが、他病院などからの問い合わせも多くなってきている。</p>
サ	相談	<p>今年度もコロナ禍での染対策を講じて面会を実施、生活状況の説明を行った。Web面会も引き続き実施した。大半は電話連絡による近況報告や手紙が中心となった。入退院の調整・新規入居退居調整を円滑に行う。</p>
ピ	介護	<p>骨折事故5件のうち夜間帯での自室内での転倒や移乗介助中の事故があり、夜間帯を含めた利用者の行動把握や職員間での適切な介護方法の周知等に課題が残った。併設の特養部と同様に未経験者を含む新人職員への教育や介護技術の向上、介助方法の周知等への取組みを要している。</p>
ス	健康管理	<p>入居者や職員のコロナ感染者やインフルエンザ罹患者はなく経過、外部受診時は感染対策の徹底を図りながら可能な限り支援を行った。3年度は新型コロナウイルスワクチン接種3回実施し予防対策にあたった。今後も可能な限り感染対策を行いながらの健康管理の継続の実施を行う。</p>
等	訓練	<p>併設特養部との訓練提供となるが、個別に訓練を実施し幅広く行実施し利用者の自立支援や訓練意欲につながった。訓練室・居室で引き続き個別にあった訓練の継続した提供とADLの維持向上に努める。</p>
	給食	<p>例年同様、入居利用者に対して、栄養ケア計画に基づいた食事提供と栄養管理を実施できた。法人企画食の提供等、コロナ禍での制約された生活の中で、利用者からも好評であった。</p>
	庶務	<p>下半期よりワイズマン導入により請求の確実性と効率化がはかられたが相談員の業務負担となり課題が残る。</p>
	行事クラブ	<p>全体での行事を企画実施とユニットごとに特色を出したレクの提供となった。コロナ禍での外出行事は実施できなかったが夏場は中庭でのレクを行う。引き続き感染拡大状況等を踏まえうえで行事企画の実施をおこなう。活花クラブは2名が定例参加した。</p>
	研修計画等	<p>外部研修の参加はほとんどなく、法人及び事業所内での研修実施に留まった。職員体制に余力がないため、Web研修の取り入れながら必要とされる研修も検討されるが思うような体制が組めず課題が残る。</p>
	設管理等	<p>新築2年目であり大きな不備はないものの入居者・職員がお互いに安全安楽に使用できる中間浴の整備が必要である。利用者及び職員の感染対策の継続を要する。</p>

## 令和3年度 老人デイ・居宅・支援センター事業報告書【概要】

総括	<p>老人デイは、コロナ禍でありながら、町内の他事業所が人手不足による利用制限もあったため前年度を上回る業績となった。感染対策を徹底し、利用者の家族にコロナ陽性の疑いがあれば利用を控えて頂く等により、感染者をだすことなく経過することが出来た。デイサービスを利用することにより在宅生活を継続できている利用者も多く、「断らないデイサービス」を目指してきた。職員の創意工夫を行い、課題を共有する事業所の姿勢が利用者・家族に評価されつつあることが実績の向上となっていると思われる。</p> <p>一日当たりの利用者は31.1名で、昨年度より2名の利用者増となった。総合事業の利用者は全体の22.9%となっている。コロナ禍でのデイサービスは感染対策の徹底と、3密の回避のプログラム工夫を実践してきたが利用者の理解も得られている。</p> <p>居宅介護支援は、受任件数も微増しており、地域のあるケアマネ事業所として認知されている。在宅介護支援センター等の委託運営事業は予定どおりの実施となった。地域相談会は中止となったが、地域民生員との懇談会を2回実施し情報の共有化を図ってきた。</p>
利用者サービス等	<p><b>利用状況</b></p> <p>老人デイの一日あたり平均利用者は31.1名であり、その内介護予防対象者は22.9%となっている。登録者の利用率は78.96%となっている。ケアプランの作成数は、述べ749件で月平均62.4件となっている。予防介護プランは月平均3.6件となっている。在宅介護支援センターの85歳時訪問件数は、年間31件となっている。</p> <p><b>健康管理</b></p> <p>老人デイ利用者の殆どが内服中であり、内服薬の確認、血圧等バイタルチェックを実施し、健康管理に努めてきた。高齢者が多く、体調の管理に努めてきた。転倒事故は1件発生したが幸いに骨折事故には至らなかった。年間を通して、コロナウイルス感染防止対策を実施し、感染防止に努めた結果、利用者・職員に感染者を出すことなく1年間経過した。</p> <p><b>訓練</b></p> <p>老人デイでは要支援・要介護共に、個別の機能訓練を実施してきた。介護予防として運動器機能向上を選択し、個別訓練を強化してきた。機能訓練ニーズは高く、訓練士を中心に全スタッフの協力で適切な機能訓練を実施し、概ね利用者のニーズに corres ponding している。総合事業については、従来の訓練プログラムを実施してきた。</p> <p><b>給食</b></p> <p>併設の管理栄養士が、直接利用者の食事に対する希望等を聞き取りながらニーズに correspond ing してきた。利用者の中には、サービス受給中の食事が大きなウェイトを占めているものもあり、健康管理の上からも、食の大切さを自覚しながら給食提供を実施してきた。</p> <p><b>行事・クラブ活動</b></p> <p>法人全体の行事は、実施されなかった。単独行事として誕生会、野外レク。忘年会餅つきを実施した。コロナ禍での行事については、マンネリになりやすく今後も工夫が必要である。</p>
事務管理	<p><b>事務</b></p> <p>少数スタッフで効率の良い物品管理、請求事務等を行うため、担当部署に物品管理者を配置し効率化を図っている。介護保険請求については、特養部との共同作業を行ってきた。</p> <p><b>施設整備</b></p> <p>建物・備品の保守管理を業者と連携して実施してきた。コロナ対策として、パーティションの設置や空気清浄機の追加購入等を行った。</p> <p><b>研修</b></p> <p>事業所内研修は、デイ職員として必要な基本的知識・技術の関する研修を実施し、法人として実施している内部研修等に参加した。ケアマネについては、ケアマネ連協研修会等の外部研修が中止となった。主任ケアマネ研修を受講した。</p>
その他	<p>町内の通所介護事業所が引き続き、事業の縮小傾向があり、当事業所への受け入れ希望が増加傾向にある。ウイズコロナの視点を持ちながら、感染対策の徹底と柔軟な対応が必要である。</p> <p>職員の確保は出来ているが、今後も職員の確保と資質の向上が必要であり、更に法人の基本方針であるパウハラのない働きやすい職場環境を構築していくことが必要である。利用者サービスの向上のためには、サービス内容の検討を常に行い、利用者ニーズに correspond ing していくことが必要である。居宅については数値目標を設定して利用者の確保に努め、地域の機関との連携を目指していくことが必要である。</p>

## 令和3年度 グループホーム いたどり事業報告（概要）

概 要	<p>今年度、上半期は入院・退所に繋がるケースがあるが、下半期は比較的安定した稼働率を保つことができた。また、退去から新入居への日数をあげない事で稼働率の大きな低下を防ぐことができた。</p> <p>その結果、昨年の96.1%の稼働率を超え97.6%の稼働率で今年度を終えることができた。</p> <p>地域貢献や関りになどについては、今年度も昨年同様にコロナウイルスの影響を受け町内会の活動はもちろん、ご家族との面会頻度の減少・外食や買い物などの提供もできない状況となってしまった。ただ、入居されている利用者の皆様にコロナ前と同様の季節を感じられる行事を提供し、近隣へ全員参加のドライブと好みの食事のテイクアウトなど、少しでも気分転換に繋げられる支援を行うことで、以前と比較しても大きく認知症が悪化する事を防げたと思われる。</p> <p>また、運営推進会議についても昨年同様に紙面開催と情報誌の送付にて、構成員の皆様には、いたどりの状況を紙面で知って頂くことができたと思う。</p> <p>職員状況については、退職と入職や病気など、安定しない時期もあったが、職員間で互いにサポートし支えあう事で安定してきていると思う。</p> <p>今年度もコロナ禍での事業となるが、事業所内でのコロナウイルス感染者が見られなかったことが幸いだった。</p>	
利用者サービス	利用状況	<p>令和3年度の平均利用者数は17.6人と昨年より0.6人増加される。上半期は入院や退去のケースが続いたが下半期は安定した事が今回の増加に繋がる。利用者の方の状況も最高齢98歳を筆頭に90歳代が8人と在籍人数の約1/3以上の方が90歳代になっている。その為、以前と比較しても活動場面が少なくなり、逆に受診の頻度や身体介助を必要な方が増えている。要介護度については、要介護3以上の方が13人と全体の2/3を占めている。</p>
	健康管理	<p>入居されている利用者の全ての方が認知症以外の疾病があり、また高齢化に伴い新たな疾病を抱える方も中には見られる。ただ、毎日のバイタル測定や状態観察、24時間サートの活用などで少しの変化を見逃さず体調管理と変化への早期受診対応にて健康管理に努めてきた。今年度は転倒が多く、中には骨折に繋がるケースもある。原因としては、認知面の進行はもちろん、脳梗塞の麻痺や高齢になり以前と比較し歩行状態が低下しているにも関わらず以前同様の歩行や行動をする事で転倒してしまい骨折に至ることがあった。1年を通しコロナウイルスへの感染予防・防止対策に努め、利用者及び職員とも感染者を出さずに経過できた。</p>
	給 食	<p>食事提供委員会が中心となり献立を作成。入居前の聞き取りや普段の交流の中での聞き取りにて嗜好品を把握し都度献立にいかせられる様にしている。和・洋・中での同じものが続かないように、また、肉や魚と同じものが続かない様に注意を継続した。高齢に伴う口腔内の変化や体調に応じ、柔軟に形態や献立を変更し摂取量も図れる様にも対応した。ただ、昨年同様に外食する機会がもてなく、ご家族や地域の方との食に関する関りも無いまま今年度を終えてしまう。</p>
	行 事	<p>コロナ禍ではあるが、規模を縮小しながらもコロナ禍前に施行してきた季節行事を中止することなく提供を行えた。法人内全体の行事は実施されなかったが、それに代わる新たな行事を提供することもでき楽しむことができた。ただ、家族との交流する行事や、地域参加・外出し施設を観覧するなど、身体を動かしたり視覚や聴覚で楽しむ行事を提供することができなかつたので、今後は視覚や聴覚にて楽しむ・身体を動かすことができる行事を検討することが必要。</p>
事務管理	事 務	<p>職員管理・請求業務・保険者との連絡調整やケアプラン作成など、遅滞なく行えることができた。</p>
	施設整備	<p>今年度は「ワイズマン管理システムの更新」にて大きな出費になってしまう。その他に、日常的に使用している乾燥機の修理や電子レンジの購入も行った。今後に関しても洗濯機や冷蔵庫など日常的に使用している物品の経年劣化での修理・購入や、開設当初から使用している蛍光灯などの購入などが予測される。</p>
	研修	<p>感染防止・拘束廃止と虐待防止への事業所内研修は定期的開催する事ができた。外部研修についても12月に白老町にて開催された権利擁護への研修に参加ができる。ただ、法人研修については職員の入れ替わりなどで中々参加する事ができなかった。</p>
その他	<p>在籍上は職員確保ができていたが病気などで実際には職員数減で業務している。今の所は互いに支え合い業務しているが、明らかに疲弊している言動も確認されているので、離職を防ぐためにも言葉以外に介助のサポートも継続し行い代休消化に努める必要がある。</p> <p>職員間のハラスメントが確認された段階で個人面談を行いハラスメントの無い働きやすい環境を作る必要がある。</p> <p>入居利用者の高齢化に伴い、今後は入院もしくは退去に繋がることも考えられるので利用者確保を継続し行っていく。</p>	



## 令和3年度 しおさい 事業報告書【概要】

総 括	介護サービス包括型として人員配置は世話人4：1、夜間支援体制についても加算Ⅲ（緊急連絡体制による支援）で同様である。【定員の確保】【障害福祉サービスの協力関係】という面では、新型コロナウイルス禍ではあるが、相談支援事業所とも連携を取りながら、定員維持となった。入居相談が知的、精神障害をお持ちの方が多く、生活支援員、世話人へ関わりについての勉強会、毎月のスタッフ会議、世話人会議の場で、支援について、話し合いを行える場を持つことに繋がった。当法人のメリットでもあるはずの生活介護との繋がり、短期入所支援や施設入所支援への繋がりが薄く、当法人の生活介護を利用せず他事業所への利用が多くなってしまい、日中活動：生活介護の特色を持たなければならないという新たな課題も出てきた。【利用者支援】としては、入居、相談ケースとして身体障害、知的障害、精神障害と3障害を受け入れているグループホームとして、個々のニーズにあったサービスを提供、勉強会、スタッフ会議などを活用し、支援への理解に努めてきた。【防災、事故、防犯対策】については、防火避難訓練の実施、重度化、高齢化していく利用者様への夜間支援体制については、今後も検討を行っていく必要がある。【職員研修、スキルアップ】に関しては、月に1回のスタッフ会議、サービス管理責任者、生活支援員への障害合同研修などに参加し、世話人への周知を図る形を継続。新たな試みとして世話人会議を実施し、情報交換、意見交換、勉強会の機会を持ち、食事提供方法、食費の見直しの検討、業務改善に繋がった。また、サービスを支える大きな役割である世話人に対しても、より働きやすい職場作りとして、世話人会議での業務改善、ボトムアップの機会、サービス管理責任者、管理者代理によるスタッフとの面接も、昨年に継続して実施。スタッフの想い、事業所としてのサービスの在り方などを話し合う時間を設けることが出来た。新型コロナウイルスの影響もあり、ご家族様や地域住民等との交流の場として利用者様が企画の主体となる「夏祭り」、「旅行会」を開催は断念した。感染症対策を継続し「地域で暮らす」ということ、「家」であることを忘れずに、利用者本位、地域生活を今一度考えていく。障害分野(療護部)のサービスにより、しおさいも定員、日中支援型グループホームへの移行、拡大、新たな日中活動の創出など、障害分野の事業展開や状況に応じられる体制づくり、スタッフの働きやすい、やりがいのある職場づくりを目指していく必要がある。	
利 用 者 サ ー ビ ス 等	相 談	相談支援事業所との連携、グループホーム見学、今後のグループホームを検討するための住宅見学、他の日中活動の見学を行ってきたが、長期的に考えると、利用者確保、待機者確保と、しおさい独自の色が必要になってきていると考える。サービス管理責任者、管理者代理、管理者と月1回以上、しおさいについて話ができる場面を作り、意思疎通、繋がりを実感出来る環境整備を継続した。
利 用 者 サ ー ビ ス 等	相 談	利用者の個別支援計画に基づき支援を継続。身体、知的、精神障害と3障害を受け入れているグループホームとして改めて利用者ニーズ、アセスメントの捉え方の再確認の場を設け、個別支援計画の充実を図ってきた。新型コロナウイルスの影響もあり、しおさいのブログを毎日更新し、サービス管理責任者のみではなく、生活支援員、世話人からの情報発信、「しおさい」を伝えることに取り組んだ。
利 用 者 サ ー ビ ス 等	生 活 支 援	3障害の受入を行っており、改めて支援のあり方の確認、声掛け、日頃の生活スタイルの把握など基本に立ち返るために勉強会を昨年に引き続き実施。世話人同士の交流の場を設け、より利用者様に対する支援を考える場としてスタッフ会議以外の世話人会議の場を設け、ボトムアップの場を作り業務改善に取り組む。
利 用 者 サ ー ビ ス 等	健 康 管 理	生活支援員、世話人による日常的健康チェックや早期対応による健康管理の把握に努め、適時受診介助などを行ってきた。投薬方法、自立支援、管理体制などの意識共有を図る場面を多く設定し、利用者様と一緒に考える機会を作った。また、感染症予防としてインフルエンザワクチン接種、新型コロナウイルス勉強会、手指消毒振り返りの場を設け、リスク管理の意識向上にも努めた。
利 用 者 サ ー ビ ス 等	給 食	利用者の嗜好や栄養面に配慮した献立を行い食事の提供に努めてきた。世話人同士のスキルアップのため調理実習・試食会も例年通り実施。また業務改善の為、とどつく等の業者導入に関しても、実際に試食の機会を設け利用者様の協力、世話人との協議の場を持ち、しおさいの『食』を今一度振り返る時間を持った。
利 用 者 サ ー ビ ス 等	行 事	例年通りの夏祭りや忘年会の開催とは行かなかったが、住まいの場、感染対策を考慮しながら、利用者様と共に考えながら実施した。当法人のみの利用ではなく、他事業所企画のイベントもあり、その都度、連携、リスクの確認を行いながら、参加して頂いた。コロナ対策に関しては、他事業所からも実施状況の確認、感染対策について共に考える体制も持つことが出来た。サービス管理責任者のみではなく、生活支援員、世話人と共に、日々の様子をブログで更新し続けることが出来た。
利 用 者 サ ー ビ ス 等	研 修 計 画 等	法人研修委員会及び療護部・更生部との合同研修委員会にて研修内容を検討し実施してきた。また、得た知識、情報をしおさいに伝達する役割をサービス管理責任者が発信者として機能。内部の研修会が主ではあったが情報収集や各職場への周知を図り、職員の知識・技術の向上に努めてきた。
利 用 者 サ ー ビ ス 等	施 設 管 理 等	防火訓練の実施。築10年が経ちとなり、修繕力所の確認を行う必要がある。

## 令和3年度 寿幸園（短期含）事業報告

事業報告	<p>1. 令和3年度は、年度を通して退居23名に対し入居25名であり、定員の半数が入れ替わった状況であった。退居者の内訳は死亡退居が10名・長期入院が11名・他老人施設入所が2名であった。入居者の内訳は在宅が8名・病院が7名・他老人施設が10名であった。居宅からの入居者のうち2名は虐待による特例措置入所、他の6名は寿幸園ショートステイ利用者であり、寿幸園が地域のセーフティネットとしての機能を果たすことが出来ていると言える。又、退居→入居までの空床期間は平均20日であるが、数日から30日以上と幅が大きく、実質的な待機者確保に課題がある。</p> <p>2. 重大事故は3件発生しており、いずれも骨折事故であった。うち1件の事故は、事故後の不適切な職員対応が家族の心情を大きく害することとなり、結果としては家族との和解となったものの、改めて事故発生直後の丁寧かつ誠実な対応が、寿幸園及び天寿会の信頼につながることを再認識した。</p> <p>3. 北海道の集中的実施計画に基づき、まん延防止等重点措置解除まで全職員（委託業者含む）で抗原定性検査を計3回実施、陽性者は無しであった。</p>	
利用者サービス	入居者状況	<p>1. 令和3年度末時点の入居者数は54名であり、平均介護度3.2、平均年齢84.4才であった。95才以上の入居者は6名おり、最高齢は99才。</p> <p>又、平均在所期間は2年7ヶ月であった。</p>
	相談援助	<p>1. 新型コロナウイルス感染拡大による面会制限等の処置については、非常口扉越しの面会等、感染防止を図りながら施設建物の特性を生かし柔軟に対応した。</p> <p>2. 入居待機者について、現在の待機者に対して待機継続意向調査を実施し待機者名簿の整理を行った。</p>
	介護支援	<p>1. 退職者が数名生じたが、都度、補充や勤務調整等を行い、入居者の日常生活には影響を来さないよう対応することが出来た。</p> <p>2. ブロックごとにユニット内レク等を企画し、外出行事の代替えとして季節を感じる事が出来る行事を実施した。</p>
	健康管理	<p>1. 年間を通じ、手指消毒やマスク着用を徹底し、新型コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウィルス等の感染症の発生は見られなかった。又、新型コロナウイルス感染予防として、ショートステイ利用者については、利用開始時に都度抗原定性検査を実施した。</p> <p>2. 協力病院である白老町立病院の都合により、嘱託医の交代が3回あった。又、2月には町立病院病棟が新型コロナのクラスターと認定され、入居者の受診等に支障が生じたが、都度町立病院と連携を図ることにより、大きな混乱を来すことなく経過することが出来た。</p>
	機能訓練	<p>1. 訓練担当者の体調不良により病欠・休職となったことから、9月以降は機能訓練が困難な状態となった。この状況に対して、天寿会内他事業所の協力を得て、機能維持が必要な入居者に対し重点的に機能訓練を実施した。</p>
	給食	<p>1. 食事を伴う外出レクが企画できない中で、食を通じて生活に潤いが得られるように食事レクや献立作成に努めた。</p>
	行事	<p>1. 夏祭りについては、後援会との共催は協議の上で中止とし、寿幸園単独で館内の設備を利用して実施した。</p> <p>2. レク委員会を中心に、新型コロナウイルス感染リスクを下げながら、入居者の生活に変化・季節感を持たせる行事を企画・実施した。</p>
	研修	<p>1. 事故に関する職員研修を実施した（全7日間）。その他、老施協によるオンライン研修を多職種で受講した。</p>
	その他	<p>1. 白老町から寿幸園無償譲渡に向けて、白老町関係者との会議及び必要書類作成提出を行った。（令和4年4月1日寿幸園無償譲渡）</p>

令和3年度 介護老人保健施設 そよ風の里 事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>令和3年度は、前期は退居者も少なく安定した経営ができており、稼働率も高い水準を維持していたが、後期は8名の死亡者がおり年明け1月以降5名と集中し、加えて年末より療養職員や退職により職員の欠員が増えたことにより新規の受け入れが思うように実施できず稼働率の低迷を招く結果となった。</p> <p>新型コロナウイルス感染対策に関しては、感染拡大により職員が濃厚接触者となるなど業務への影響も見られたものの、「持ち込まない」をモットーに手指消毒・マスク着用を徹底し入居者の感染者はゼロで経過している。昨年度も新型コロナウイルス緊急包括支援金を活用し感染予防に関する備品の整備を行ったが、今年度も補助金を活用しマスクなどの備品を整備した。</p> <p>入居者対応としては、新型コロナウイルス感染防止から昨年度より外出行事を取りやめ、ユニット行事時のユニット費の上限額を引き上げ、ユニットレクの回数を増やし内容の向上を図った。又、事故に関しては事故発生が191件、ヒヤリハットは16件となり、うち1件は骨折事故で保健所・保険者へ報告を行った。</p>	
<p>利用者サービス等</p>	<p>利用状況</p>	<p>年間の稼働率は97%で昨年度とほぼ同様であった。短期入所療養介護事業については、入居を優先対応につき稼働実績はなし。</p>
<p>相談</p>	<p>相 談</p>	<p>他の医療機関や法人内の他事業所からの利用相談はあったものの、職員の欠員により新入居に繋げることが困難な状況にあった。又、新型コロナウイルス感染拡大に伴う一部緩和における面会においては、電話連絡や書面等の手段を通じ概ね家族の理解を得ることが出来た。</p>
<p>介 護</p>	<p>介 護</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響から外出行事の企画が出来なくなったことから、ユニット内でのレク（食事レク等）を実施した。又、入居者・家族とも長期間顔を見ることが出来ていない状況を鑑みて、行事時の写真等を家族に提供するサービスを実施した。</p>
<p>健康管理</p>	<p>健康管理</p>	<p>入居者の健康状態は比較的落ち着いた状況だが、入居者の体調不調時には、都度、適切・迅速に対応しており、必要に応じて他医療機関に繋げることが出来た。また、新型コロナウイルスに関してはワクチン接種を推進し、感染状況に応じて職員・入居者に対して抗原検査などを実施し予防に努めた。</p>
<p>訓練</p>	<p>訓練</p>	<p>訓練に関しては、作業・言語訓練共に新型コロナウイルス感染の影響は殆どなく従来通りに訓練を実施することが出来た。</p>
<p>給 食</p>	<p>給 食</p>	<p>聞き取りや給食運営会議等により、概ね入居者の嗜好に合わせた献立を実施することが出来た。また、行事食、食事レク（鮎・ラーメンの提供、デザートバイキング等）、選択食などにより食生活に変化をつけることが出来た。</p>
<p>庶 務</p>	<p>庶 務</p>	<p>請求に関しては概ね滞りなく行うことが出来た。介護療養型老健として経管栄養者を15%(12名)以上確保しなければならないが、徐々に対象入居者が減少し余裕のない状況にあり、入居者の安定確保が課題となっている。</p>
<p>行事クラブ</p>	<p>行事クラブ</p>	<p>生け花クラブ3名が月1回活動を行い、余暇活動として参加者の気分転換を図ることが出来た。</p>
<p>研修計画等</p>	<p>研修計画等</p> <p>そよ風の里としての研修計画は未策定であるが、法人研修へ13名の職員が参加している。</p>	
<p>施設管理等</p>	<p>施設管理等</p> <p>新棟設備に関しては4階特浴の故障により修理を行っている。施設備品としては3階、4階の業務用PHSの故障により3台新規購入をしている。また、利用者の事故防止のためマットセンサー、赤外線コールを購入し、故障が確認されたベトリモコンの交換などを行っている。ユニット内備品としては食洗器、電気ポットなども更新しており、備品等の経年劣化が目立ってきている。次年度も点検を行い適時更新が必要となるものと思われる。</p>	

## 令和3年度 診療所事業報告書（概要）

総 括	<p>診療所事業については、当診療所が地域から期待される医療ニーズを踏まえ、慢性疾患を主病とした地域住民への医療提供と法人施設のご利用者様及び法人勤務職員に対する医療提供や健康管理を主として事業運営を継続してきた。</p> <p>収入については、法人内の施設利用者に対する収入はある程度確保出来ているが、一般外来患者に関しては年々減少基調にあり診療所拠点区分単体での運営は依然として厳しい経営状況にあるものの、新型コロナウイルス感染拡大による一般外来患者及び施設利用者、職員へのワクチン接種により診療収益が増えたため、例年と比較し収益の改善が図られた。</p> <p>新型コロナウイルス対策として令和3年から個別接種実施施設として、苫小牧医師会を通じて北海道と委託契約を締結。また、白老町からの依頼を受け集団接種実施施設として一般外来患者や法人内施設利用者や職員を対象に新型コロナウイルス感染のワクチン接種に努めてきた。今後も国の動向を踏まえつつ白老町など関係機関と連携し新型コロナウイルスワクチン接種計画に基づいた個別接種・集団接種への協力を行う。</p> <p>事業概要としては、以下の内容の事業を実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域住民に対して主に慢性疾患等の診療を提供する。</li> <li>2. 施設入所利用者様に対して健康管理・健康診断を提供する。</li> <li>3. 法人職員に対し健康管理を提供する。</li> <li>4. 地域住民・職員・施設利用者に対し、ワクチンや予防接種を提供する。</li> <li>5. 学校健診を受託する。</li> </ol>	
医 療 サ ー ビ ス 等	地域住民	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約による「特定健診」や「後期高齢者健康診査」は、新型コロナウイルス感染の影響を受け、「特定検診」「後期高齢者健康診断」は予定件数に達することが出来なかった。</li> <li>2. 在宅療養指導はほぼ予定数通りとなった。</li> <li>3. 登別・室蘭・苫小牧の協力医療機関と連携し、緊急時支援体制の確保を図った。</li> <li>4. 肺炎球菌は予定を下回る結果となった。インフルエンザは予定件数の倍近く実施することが出来た。</li> <li>5. 白老町内の学校検診へ協力している。－白老町立虎杖小学校・竹浦小学校。但しピロリ菌支援事業は中止している。</li> </ol>
	施設利用者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチン接種は、ワクチンを確保ほぼ予定通り実施できた。</li> <li>2. 登別・室蘭・苫小牧の協力医療機関と連携し、緊急時支援体制を確保してきた。</li> <li>3. 定期健康診断と診療を実施した。</li> </ol>
	人 員	人員配置は、医療法・医師法等を遵守した配置である。 医師 2名 薬剤師・看護師・レントゲン技師 ・臨床検査技師 ・薬局助手 1名 医療事務 2名
	医療器具	必要最小限の機器で対応し、設置機器以外については委託業者に依頼している。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心電図装置</li> <li>2. 超音波画像診断装置</li> <li>3. 尿検査器</li> <li>4. レントゲン撮影装置（回診用X線装置を含む）</li> <li>5. 針治療器</li> </ol>
施設管理等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2階、3階の避難誘導灯の経年劣化により交換工事を実施した。</li> </ol>	

## 令和3年度 天寿会介護福祉士実務者研修通信科事業報告【概要】

<p>総括</p>	<p>新型コロナウイルスの感染が拡大する中、感染予防に努め講座運営を行った。</p> <p>令和3年度介護福祉士国家資格の合格率については、R3年度卒業生及び実務経験が不足していて令和3年度受験した者を含む、無資格者4人中3人合格(75%)、訪問介護員2級修了者1人中0名合格(0%)、全体の合格率60%となった。本講座卒業者について、無資格者・初任者研修修了者の合格率は95%と高水準を維持しているが、訪問介護員2級修了者の合格率は60%で、複数回受験が多くみられることから、より効果的な教育方法等について検討の必要性が考えられる。</p>	
<p>利用者サービス等</p>	<p>利用状況</p>	<p>令和3年9月開講通常コース2名、計2名の受講(1クラス5名3回開講 計15名の定員に対し)受講率13%、前年比47ポイントマイナスとなった。</p> <p>新型コロナウイルスのまん延に伴う感染対策等による講師の負担、前年度に実務経験に満たないものの受験した者の数が増えたことが、減少の要因となった。</p>
	<p>サービスの向上</p>	<p>受講生の利便性の向上のためWEB学習システムを導入し、前年度開講講座より運用を開始した。受講生からは、場所を選ばず学習できることや、繰り返し問題を解くことで知識を習得しやすいと好評を得た。また、法人ホームページ内に受講生専用ホームページを開設し、情報発信、通信学習支援、介護福祉士国家試験受験支援を行った。ICT活用を進めたことで、事務負担の軽減を図ることもできた。</p> <p>教育教材について、リトルアンQCPRを活用したことで、タブレット端末を使用して状況の確認ができることで、より質の高い技術を習得できるトレーニングを実施することができ受講生からも好評を得た。</p> <p>また、教員によるサービス会議を開催し、課題整理や今後の運営について協議し一定の成果を得たが、教員の質の向上については、新型コロナウイルスのまん延により研修派遣への実施に至らなかった。</p>
<p>申請手続き等事務</p>	<p>第5条報告を適切に実施するとともに、介護福祉士実務者養成カリキュラムの変更・WEB学習システムの導入に伴うテキスト・カリキュラム変更に伴う必要な手続きを実施した。</p> <p>教育訓練給付金指定講座運営については、実績報告について遅延なく実施するとともに、指定講座運営の書類整備、ホームページへの明示書の掲載等、指定講座運営に必要な事務を実施した。</p>	
<p>施設管理等</p>	<p>新型コロナウイルスの感染予防のため、スクーリングの開催にあたっては、感染予防に関する協力の要請・事前の体調確認を実施し、講座開始前の検温・体調確認、マスクの着用、手指消毒、アクリルパーテーションの設置、換気、一定の距離を保てるようスペースを確保し、教育方法についても接触を可能な限り最小限とするなど工夫して実施した。</p> <p>通信科備品管理、消耗備品の在庫管理・補充、研修室の整理等適切な施設・備品管理に努めた。</p>	